

チーフサプライチェーンオフィサーメッセージ



代表執行役エグゼクティブバイスプレジデント
チーフサプライチェーンオフィサー

福田 信夫

グループ各社の持続可能かつ高効率な サプライチェーン構築をリードしていきます

グループの生産活動を最適化

三菱ケミカルグループは従来、グループ会社ごとに独立した運営を行ってきましたが、今後は「One Company, One Team」としてより高いパフォーマンスを発揮していくために、会社間の壁を取り除き、連携を強化していく方針です。

その中で私のミッションは、グループ会社のサプライチェーンを統括するため新たに設立したオペレーション本部において、グローバルなエリアごと、また各社を所管するビジネスグループごとの縦横のマトリクス体制でグループ会社の生産活動を支援していくことです。そのために、2022年に制定した「Instruction

サプライチェーンにおけるコスト構造改革施策

設備修繕

- ①修繕計画のリスク評価方法を見直し、オーバーメンテナンスを回避する仕組みの確立
- ②DX技術などを活用した工事における作業員の稼働率向上

物流・サプライチェーン改革

物流業務における機能子会社との重複業務の解消、グループ外向け事業の収益改善、在庫削減、さらにはデジタル活用や他社との連携も含めた輸送効率の向上、受注業務・包装作業の効率化

購買機能集約・高度化

- ①各拠点に分散していた各種間接材・サービス調達業務の集約および競争購買の徹底
- ②購買・物流本部が調達ガイドラインを策定し、①の調達活動の効果維持、各部署でのさらなる調達コスト削減の支援

for Global Safety Standard]などをグローバルに活用し、全従業員が同じ価値観・規範を共有する「One Company, One Team」の意識を高めていきたいと考えています。

新経営方針では、2025年度までにグループ全体で1,000億円超の合理化効果を実現するコスト構造改革を掲げており、サプライチェーンでは約250億円の削減効果の実現をめざしています。

パートナーとともにGXを推進

当社グループは、2050年までの国内外の事業活動を通じたGHG排出のネットゼロ、つまりカーボンニュートラルの達成と、2030年までの2019年度比29%の排出削減を目標として定め、これを社内外に発表しています(▶P.26)。

当社グループでは2050年目標に向けて、人工光合成をはじめとするCCUS技術の開発や水素などの次世代のグリーンエネルギーへの転換、バイオ技術の活用、LCAの深化など、複数の施策の検討を進めていきます。さらに、自社の排出削減にとどまらず、バイオ原料の活用、使用済みプラスチックのケミカルリサイクル事業化(混合プラスチック油化、PET、PMMAのモノマー化など)などにも取り組み、カーボンニュートラルと循環型社会の実現に向けて、お客さま、原料メーカーさまなどパートナーの皆さまと協力して持続可能な製品・ビジネスへの転換を推進していきます。